

基本デザインの概要

平成30年4月 愛知県

1 ジブリパーク整備の主旨

- ・ 2005年に開催された愛知万博は、愛・地球博記念公園をメイン会場とし、「自然の叡智」をテーマとし、人、いきもの、地球に対する「愛」を我々に示した。万博の理念と成果を継承していくことが、我々の責務である。
- ・ 一方、ジブリ作品に一貫して流れているものも、まさに、人、いきもの、地球に対する「愛」であり、愛知万博の理念と合致している。
- ・ 愛・地球博記念公園内に、ジブリの世界をさらに広げていくことが、愛知万博の理念継承につながる。

2 これまでの経緯

- ・ 平成29年5月31日、愛知万博の理念を次世代へ継承するため、愛・地球博記念公園に「ジブリパーク」を整備するという構想について、スタジオジブリと合意
- ・ 平成29年6月県議会での補正予算により、愛・地球博記念公園内の現況調査などに着手
- ・ 平成29年11月1日、「ジブリパーク構想推進室」を設置
- ・ 平成30年3月30日、スタジオジブリと確認書を締結
- ・ 平成30年4月、基本デザインの公表

ジブリパーク構想推進室



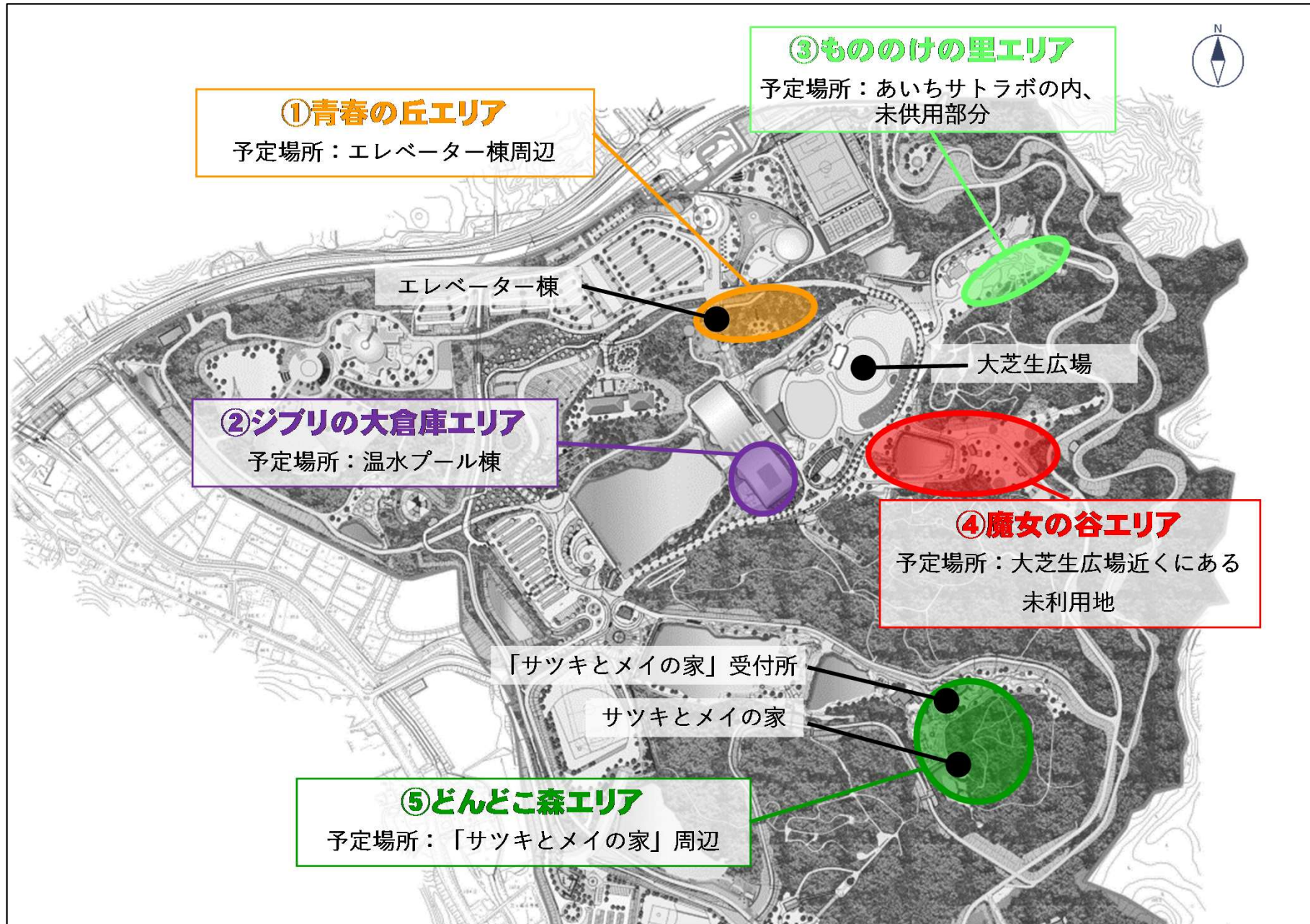
ジブリパーク構想推進室看板
(スタジオジブリ鈴木敏夫プロデューサー揮毫)

3 基本的な考え方

- ・ 愛知青少年公園、愛知万博（長久手会場）、愛・地球博記念公園と姿を変えながら、長年にわたって県民を始め多くの皆様に親しまれてきた。
- ・ 愛・地球博記念公園の都市公園としての機能や自然環境を損なうことなく、公園の歴史的成り立ちや皆様の思いなどにも配慮し、万博後の未利用地や既存施設を有効活用する。
- ・ スタジオジブリの協力のもとに、基本デザインの各施設を公園施設として整備し、これによって公園全体の魅力を高め、より多くの皆様に愛されるオンリーワンの公園になることを目指す。
- ・ 公園内を「楽しんで歩いていただけること」を重視するとともに、公園内で根付いている様々な活動やイベントなどと共存することを目指す。
- ・ 今回公表する基本デザインは、次のステップである基本構想などの核として位置付ける。



4 基本デザインのエリア



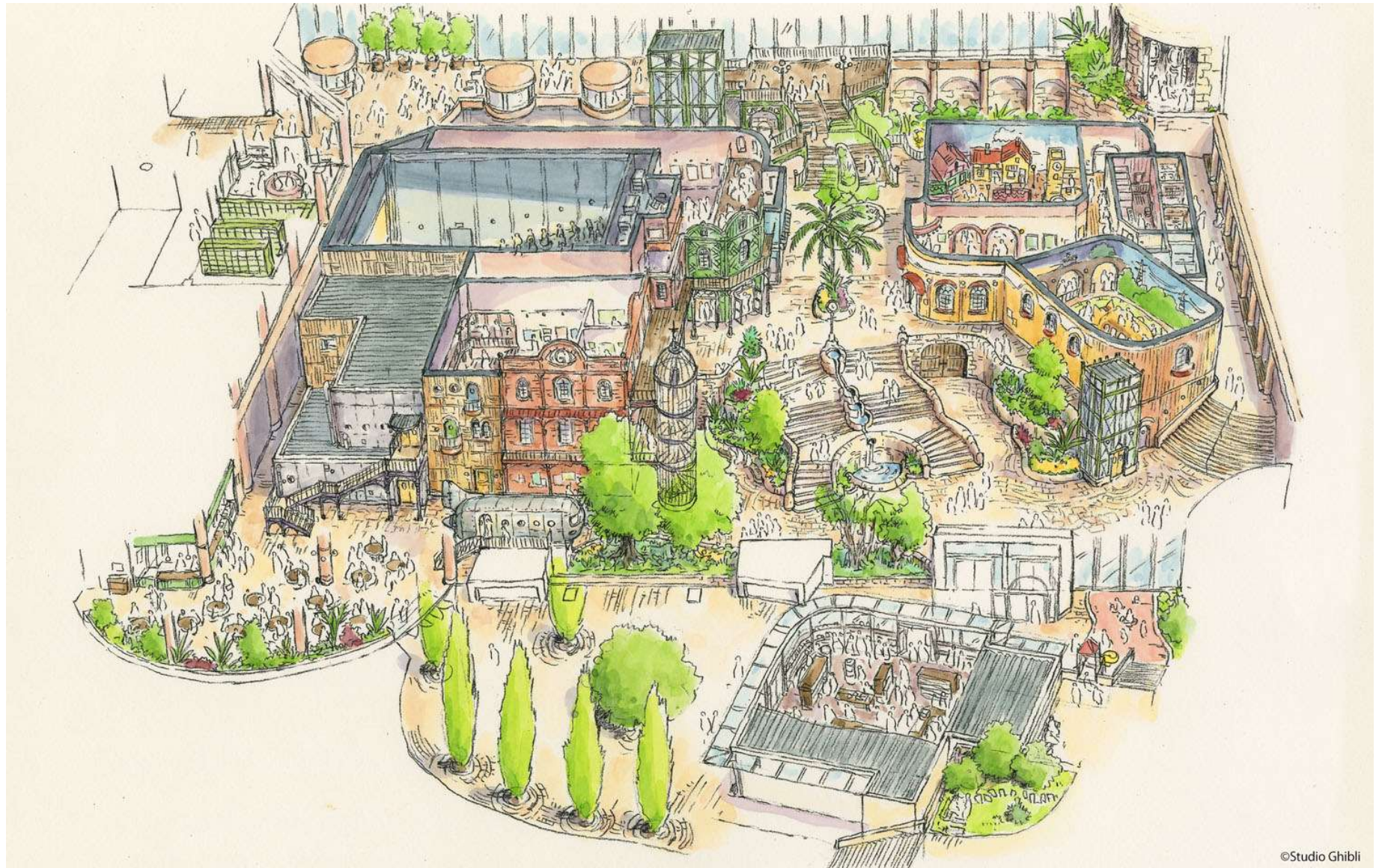
- ・ 「エレベーター棟」は、映画『ハウルの動く城』などのジブリ作品に見られる19世紀末の空想科学的要素を取り入れ、メインゲートとしての象徴性を持たせる。
- ・ エレベーター棟周辺では、斜面の高低差を活かして、映画『耳をすませば』の「地球屋」を再現する。
- ・ エリア名は、映画『耳をすませば』の内容と愛知青少年公園時代に管理棟があったことにちなみ「青春の丘エリア」とする。



- ・ 平成30年9月末に営業を終了する温水プールの空間を活用して、通年天候に左右されずに楽しめる施設としてリニューアルする。



- ・ 展示室や映像展示室、子どもの遊び場、倉庫などを整備する。
- ・ スタジオジブリの多くの展示物を収蔵する倉庫も兼ね備えており、たくさんの楽しさが詰まった大空間であることから、エリア名は「ジブリの大倉庫エリア」とする。



- ・ 「あいちサトラボ」の田畑など日本的な景観と調和を図るため、映画『もののけ姫』の「タタラ場」をモチーフにした建物などを整備する。
- ・ 広場には、映画『もののけ姫』の「タタリ神」や「乙事主^{おっことぬし}」をモチーフにしたオブジェを計画する。
- ・ エリア名は、映画『もののけ姫』にちなみ「もののけの里エリア」とする。



- ・ 大芝生広場近くにある未利用地に映画『ハウルの動く城』の「ハウルの城」や映画『魔女の宅急便』の「オキノ邸」（主人公キキの実家）、遊戯施設などを整備する。
- ・ エリア名は、魔法を題材とした2作品にちなみ「魔女の谷エリア」とする。



- ・ 「サツキとメイの家」周辺をより充実させるため、受付所等を「サツキとメイの家」と合わせたデザインとし、裏山の森に散策路を再整備する。
- ・ エリア名は、映画『となりのトトロ』と「サツキとメイの家」にちなみ「どんどこ※森エリア」とする。
※映画『となりのトトロ』の中で、サツキとメイの蒔いた種が、早く芽を出すようにと、夜、トトロと一緒に踊る。
スタジオジブリによればこの踊りを「どんどこ踊り」と言う。

